

子ども子育て会議 要録(令和6年度 第3回 令和6年12月25日)

区分	内容
1. 開会あいさつ	
こども・健康部長あいさつ	
2. 議題	
(1) 第3期計画の基本方針等について	
事務局	「(1) 第3期計画の基本方針等について」説明
委員長	説明の内容をふまえ、質問や意見はないか
委員	「1. 小郡市こども計画の策定にあたって(2) 計画の位置づけ」の□枠でくくっている箇所の順序は関係ないのか。 「2. 小郡市がめざす方向性、(2) 基本方針2.」は、「こどもの育ちや、ライフステージごとの子育てを考える」より、「ライフステージごとのこどもの育ちや子育てを支える」の方がわかりやすいのでは。「こどもがのびのび育つ」というのはどこに入るのか。
事務局	□枠内の順序は特に意識していないが、大きな項目から小さい項目へとなるようつくっていく。基本方針2. は表現方法を考えます。
委員長	第1期、第2期計画はどのように評価しているのか。
事務局	第2期計画年度が今年度までとなっているため、今年度、総括を行いたい。 今までは子育て支援を地域の中で推進していくという考え方から、こども大綱、こども基本法を受けて、第3期は根本的に「子どもを真ん中にした社会づくり」に転換していくよう基本目標を設定していきたいので、ご意見をいただきたい。
委員長	ひらがなの「こども」、漢字の「子ども」の使い分けはしているか。
事務局	第2期では「子ども」と表記しているが、第3期では「こども」に統一したい。
(2) アンケートについて	
事務局	「(2) アンケートについて」説明
委員長	説明の内容をふまえ、質問や意見はないか
委員	アンケート対象を小6、中2にしたのはなぜか。
事務局	こども達が安心して居場所について、ヤングケアラーの件も聞きたいため、学生は小6、中2で回答できる年代だと判断し対象とした。
委員長	アンケートの対象者を選んだ理由をまとめておいてほしい。
委員	アンケートは毎年実施するのか。
事務局	この計画は5年間の計画としており、計画見直しの時に実施する考え。 経過を追うのも大事だが、費用・業務負担もある。
委員	5年間の間に環境等も変わるし、こどもだった子が大人になる。5年後は長いのでは。
事務局	取り組みの評価は行う。取り組みの課題と成果を比較しながら調整していく。 今回、こども基本法が制定されたことで、こども計画を策定するにあたり、こどもの意見聴取の機会を設けアンケートやワークショップ等も計画している。 こども基本法の中で、地方自治体が計画を策定する時は必ず当事者であること

	も若者の意見を聴取しなければならないという義務規定化されている。 こども計画のみならず、小郡市全体のまちひとしごと総合戦略を立てる時にこどもの意見を聞いたり、障がい児の方々の障がい児福祉計画や、地域福祉計画、それ以外に公園の整備をする時にも、それぞれの部署がそのタイミングでこども若者の意見を聴取していくと思う。
委員	アンケートは学校からこどもに手渡されて、家でこどもが答えるのか。タブレットを使えば集計や発送の手間も減るのでは。
事務局	アンケートは学校から子どもに渡していただき、家で子どもに答えていただく。
委員長	学校の協力をいただき、先生が説明しながら回答するのが確実だろうと思う。 若者は Web だと早くできそう。
事務局	代表校長会の先生にご協力いただき進めている。Web だけだと回収率があがらないとも伺ったので、紙と Web 両方で進めている。
委員	家族の中で、大人もこどももアンケートが来たら、質問項目も多いので大変そう。
事務局	無作為抽出の分は、1世帯に何種類もアンケート該当にならないよう調整する。
委員	パイロットスタディで何人かにあらかじめ調査してもよかったのでは。
委員	内容が多いのでアンケートの余白を上手に使うなどして見やすくしたほうがよい。
事務局	工夫したい。
委員	学校での居場所は聞かないのか。
事務局	学校での居場所については聞いていない。
委員長	こどもの調査は、同じような調査が他にもある。ダブるところは省略できるのではないか。
事務局	国の生活実態調査を基に作成している。調査結果は、学校教育部局と情報共有したい。
委員	個人が特定されるのか。不登校のこどもたちへの対応はどうするのか。
事務局	個人の特定はされない。不登校の子も基本的に学校から配布していただく。難しい場合は市からもアプローチする。
委員	無作為といえど、地域、障がいの有無など、カテゴリー毎に見ないと全体像がみえないのではないか。支援学級のこどもたちは、質問の内容がわからないなどの懸念がある。学校での支援が必要では。 小学校6年生に「将来」というより、「〇歳になったら」という言葉で聞いた方がイメージしやすいのでは。
委員	対象者数はどのようにして決定したのか。 アンケートの最後に、温かみのある言葉(フォロー)や問い合わせ先(相談窓口)などを入れてもいいのでは。
委員長	緊急に手を差し伸べなければならない子や、助けを求めている子もいるかもしれない。丁寧な対応を行ってほしい。
事務局	悩みながら書いてくれた子どもが、相談に繋がるよう相談場所などの表記について対応を考える。

委員	学校から配布時に先生からの声掛けがあると、子ども達も安心するのでは。
教育委員会	今回のアンケートは内容的に家族の状況等も詳しく聞いているので、どのような方法がよいか学校とも協議したい。
委員長	学校も子育て支援の場のひとつ。子どもを育てることは、子ども・健康部だけでなく、関係機関が横の連携をして初めて充実する。それぞれがどうしたらいいか検討して、まちを挙げて一斉に取り組んだ方が効果が上がるだろうと思う。縦割り行政を脱却し、教育委員会もぜひ前向きに検討していただきたい。
各委員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未就学児の保護者などは、自分の校区がわからない人がいるのでは。校区がわかるような資料があったほうがよいのでは。</li> <li>・小6向けに「あなたのお住まいの地区は」と聞いているが、「あなたの通っている小学校を教えてください。」の方がわかりやすいのでは。</li> <li>・スマホやタブレットの使用は、学校外でのことであれば補足が必要では。</li> <li>・小6向け「大人や社会に言いたいこと～」とあるが、どんなことを答えてほしいのか。前向きなことを聞いてもいいのでは。</li> <li>・アンケート調査に答えることのメリットを感じさせた方がよいのでは。</li> <li>・無作為ではなくなるが、障がい児施設や保育所などの施設において答えてもらってもよいのでは。</li> </ul>
事務局	できるところは工夫したい。
委員	アンケートの回答を中断した場合、回答率に反映するのか。
事務局	回答している項目は反映させたい。
委員	施策に反映させるために回収率はどれくらい必要か(統計的に)・想定しているか。
事務局	小中学生分は学校をとおして配布するので高い回数率の見込み。未就学児の保護者は60%が目標。
委員長	内容は人権に関するフィルターはかけているのか。
事務局	国・県の実態調査は親の就労状況、所得、学歴等もっと踏み込んだ内容となっている。内容の確認は行う。
委員長	フィードバックはするのか。
事務局	公表する予定。
委員	回収率を上げるために、LINEなどで回答の依頼を行うとよい。
事務局	色々な方法で呼びかけたい。
(3) 意見交換	
事務局	「(3) 意見交換 1. 子どもまんなか社会について」説明
委員長	説明の内容をふまえ、質問や意見はないか
意見交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもによるSNSの誹謗中傷などが問題になったことがある。保護者も一緒にリテラシーを高めることが必要。大人も子どもも考えていける社会。セミナー、ワークショップ等取り入れるといいのでは。</li> <li>・子どものためにやっていること自体が本当に子どもの資源となっているのか。</li> </ul>

	<p>大人の資源としてやっているのか。下手すると大人の働き口として設定されているということもあるのかもしれない。</p> <p>幼児、小学校、中学校、高校生期でマップを作成してみて、やっていること自体を見直してみると、大人の視点でしか見てないこともあるのではないか。そこを見直すのがこども真ん中なのかなと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭的に養育能力が難しい子のための会議に出るが、子育てが難しい家庭も最終的にはこどもは親が大好きで、家庭を優先していく。その時点でこども真ん中になっているのかなと思う。</li> <li>・保護者は障がいの有無に関係なく我が子のことを心配する。でも、人に託せるかどうかがすごく大事なところだと思う。自分で切り開いていけるのかとか。</li> </ul> <p>学校でインクルージョンと言われるが、お客さんみたいな子といじられながらも一緒に生活している子は後々、地域の馴染み方がちがう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バックグラウンド 対等に支える社会</li> <li>・中学生では特に学力・スポーツ・生徒会で頑張った等についてはばかり注視されるが、文化的な子、内向的な子は認められる機会が少ない。そういったこどもも前向きになれるような、考えをもった大人が関わることが重要。</li> <li>・ワークショップはどういったことをやるのか(対象や内容など)。</li> <li>・声を出せる子はいいが、自分の思いを言えない子たちの思いが届く場所がほしい。何でも言っている場所(機会)が必要。悩みや希望等聞けたらいい。</li> <li>・大人がいいと思っていることと、子どもたちが求めることのギャップがある。</li> <li>・経験の多様化の一つとして、欧州などでは身近にワンコインで芸術に触れることができる。そういったような選択肢を増やしてあげられたらいい。</li> <li>・小郡市には公園がないという声をよく聞く。</li> <li>・病児・病後児についてのお困りの声が多い。</li> <li>・基本目標の「自分らしく」という表現が引っかかる。</li> </ul>
事務局	本日いただいたご意見をもとに、次回も、論議を深めたい。
(4)その他 今後のスケジュールについて	
事務局	「(4)その他 今後のスケジュールについて」説明
3. 閉会あいさつ	
副委員長あいさつ	